小学校から始める

# 「探究学習」

地域を探り、地域に応える

つるぎ町立半田小学校・鳴門教育大学

年 名前

# 目　次


1　このノートについて　鳴門教育大学大学院特命教授(名誉教授)　阪根　健二　・・・1

2　発刊によせて　つるぎ町立半田小学校校長　猪子　研司　・・・2

3　このノートの使い方　・・・3

4　ここから始めよう！（課題づくり）　・・・6

5　情報の収集（課題について調べる）　・・・9

6　整理・分析　・・・14

7　表現・まとめ　・・・18

8　提言書をつくろう　・・・18

9　振り返り　・・・20

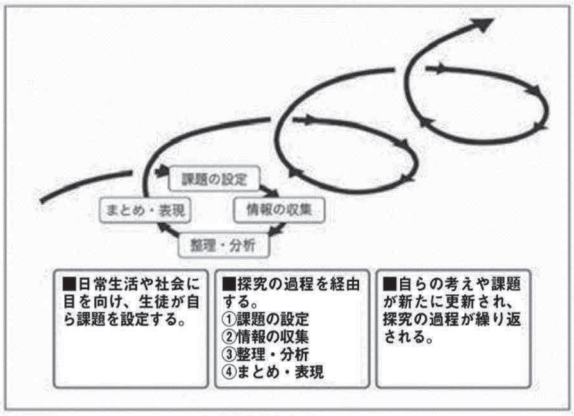
10　先生からのメッセージ　つるぎ町立半田小学校教諭　中妻　理恵

# 1　このノートについて

「総合的な学習の時間（以下：総合学習とする）」は，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしています。しかし，「教科学習」との関連付けが難しく，各学校の自由裁量に任されていたため，何をどう教えたらいいのかという教職員の声が根強く，学校行事の準備的な意味合いとして実施しているという指摘もありました。そこで，学習指導要領改訂では，この授業の意義を再認識し，これまでの流れを踏襲しながら，高等学校では授業名を「総合的な探究の時間」に変更しました。

この「総合的な探究の時間（以下：探究学習とする）」とは，生徒自らが課題を設定し，解決に向けて情報を収集・整理・分析したり，周囲の人と意見交換・協働したりしながら進めていく学習活動のことで，生徒の思考力や判断力，表現力などの育成を目的としています。これは，小学校や中学校での「総合学習」と同じ趣旨ですが，「総合学習」では，課題を解決することで自己の生き方を考えていくという学びであるのに対して，「探究学習」は，自己の在り方や生き方と“一体的で不可分な課題”を自ら発見し，それを解決していく学びを展開していくことです。つまり，より深化した学びだといえます。

図　探究的な学習における生徒の学習の姿




文部科学省「今，求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より

例えば，地域に密着した伝統や文化について深く学び，地域の一員としてどのように関わっていけばよいか考えたり話し合ったりする過程で，児童生徒が自らの興味があることに対して深く学んでいき，その学び方や学びの経験が，授業や進路選択の場面において，応用されていくことがポイントです。地域の一員として自覚し，貢献する態度も重要であり，単なる“調べ学習”や“学習発表”とは一味違うのです。

本ノートは，児童向けだけではなく，教師や保護者とともに探求できるように編集しています。適宜記入できる形で構成していますが，授業場面を基本に配置しており，何を参考にすればいいのか，どう調べ，考えればいいのかを重点を置いています。教職大学院生の置籍校である「つるぎ町立半田小学校」を例に編集しています。そのため，副題を「地域を探り，地域に応える」としました。

保護者や地域の方々も，是非この学習にご協力ください。

鳴門教育大学　特命教授（名誉教授）　阪根　健二

# 2 発刊によせて

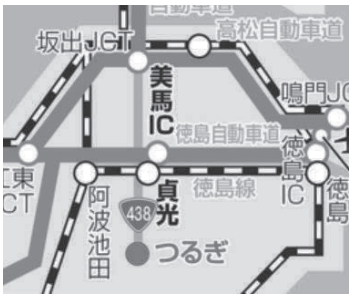
グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により，社会構造や雇用環境は急速に変化しており，まさに予測困難な時代を迎えようとしています。このような時代にあって，子供たちが様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して課題を解決していくことや様々な情報を見極め新たな価値につなげていくこと，複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるような力の育成が求められています。

総合的な学習の時間は，探究的な見方・考え方を働かせ，横断的・総合的な学習を行うことを通して，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから，これからの時代においてますます重要な役割を果たすものだと思います。

学習指導要領においては，探究的な学習の過程を一層重視し，各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け，実生活において活用できるものとするとともに，各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成することを基本的な考え方としており，その実現に向けて，探究的な学習における4つのプロセス（課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現）の質的充実が求められています。また，多様な課題が生じている今日においては，各教科等の学びを基盤としつつ，様々な情報を活用しながらそれを統合し，課題の発見・解決や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められるとして，総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習の充実を図ることが求められています。

今後，総合的な学習の時間における教科等横断的な学習や探究的な学習の充実を図るためにも，本ノートがその大きな道標となることを心より期待申しあげます。

つるぎ町立半田小学校校長　猪子　研司




児童数　111 名，学級数　8学級（令和６年1月現在）

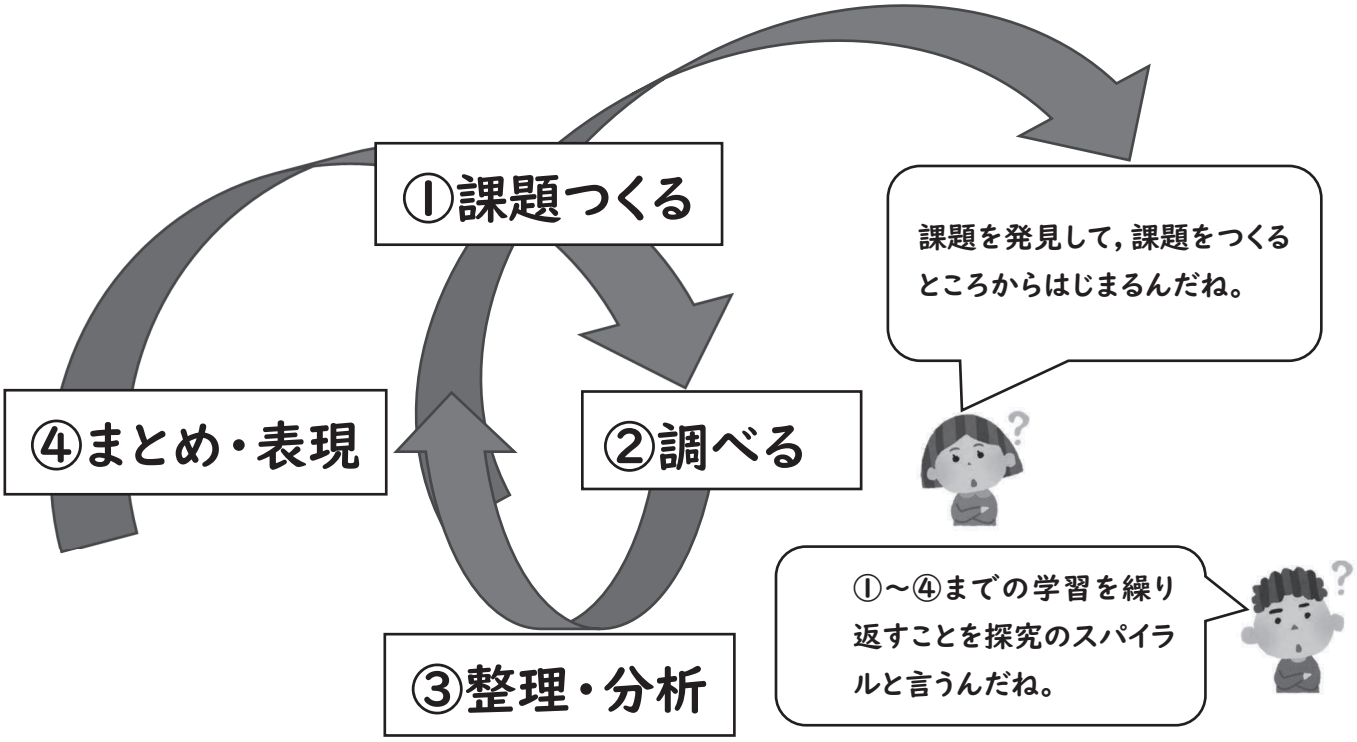
（つるぎ町立半田小学校及びつるぎ町 Web ページから）

## 3　このノートの使い方

探究学習では，「①課題つくる→ ②調べる→ ③整理・分析→ ④まとめ・表現」を繰り返します。これを，探究のスパイラルと言います。調べたことを整理している途中で，もう一度調べ直したりすることもあります。必ずしも，①～④の順番で学習が進むとは限りません。探究学習でつけたい力は，下の３つです。一番大切なことは，自分の生き方につながる学習でなくてはなりません。

**つけたい力**

- ①自分で課題を発見し解決をしようとする力
- ②いろいろな人と協働する力
- ③自分の生き方について考える力



まずは，つるぎ町のことについて，くわしく知っていくことからはじまります。これまで（4 年生まで）の学習を思い出して，知っていることをノートに書いてみよう。もっと知りたい時は，どんどん調べていこう。

## 例えば

私たちのまち「つるぎ」のこと
をもっとくわしく知りたいなあ。

**まずは，つるぎ町のホームページ（Web ページ）で調べてみよう。**

**つるぎ町のおいたち**（https://www.town.tokushima-tsurugi.lg.jp/docs/3423.html）

つるぎ町のホームページをみると，「この地域には誇るべき文化や歴史，そして豊かな自然が残っています。しかしながら，過疎地域にあって，生産人口の減少や他地域より進んだ高齢化などの構造的な問題を抱えています。こういう状況の中で，地域を誇り高く維持していくために残された道は，半田町・貞光町・一宇村が一つになって力を合わせることだと信じて合併という道を選択しました。ここに住む人が安全に，そして少しでも豊かに暮らすことができること，これが地域全体の願いなのです。」とあります。

そうならば，私たちが，そんな願いをかなえればいいと思う。そのために，もっと調べなきゃ。

“つるぎ”って，刀？山の名前？
地名の由来（ゆらい）は何かな。

# 調べてみると

林野庁の Web ページでは，剣山の名前の由来は，安徳天皇の宝剣からついたとも，石灰岩が侵食された山容が剣状だからとも，また，山頂付近の鶴岩・亀岩＝鶴亀（つるき）と関係するなど，諸説あるそうです。
木村紀子さんの著書『地名の原景』(平凡社新書)では，蔓（つる）を切るから「つるき」という説も紹介されています。「剣(つるぎ・たち)」とは，本来武器ではなく，「蔓切」(つるき)にせよ「断ち(たち)」にせよ，絡まり繁る野の草木をサクム(切り拓く)道具として生まれたと思われる」という説明もあるのです。

そうか。自然豊かで，歴史のある町だから，
“つるぎ”って言うのかもしれないんだね。
もっと調べてみたくなった。

つるぎ町で住んでいるのに，つるぎ町のことで知らないことが多いね。

たしかに！まずは，今ぼくたちが知っていることを書き出して，みんなで意見を出し合っていってみよう。

つるぎ町の「よさ」もたくさんあるけど，「たりないところ」もありそう。

つるぎ町の役場の人に聞きに行ってみて，どんな町にしたいか。私たちにできることは何か考えてみたいね。

## 4　ここから始めよう！（課題づくり）

（1）私たちが暮らしてしている「つるぎ町」ってどんなところかな。知っていることを書き出してみよう。

（2）良いところ，足りないところを考えよう。

| 良いところ | 足りないところ |
| --- | --- |
| | |

つるぎ町の今ある良さを生かして，私たちにできることは何かないかなあ？

そうだね。わたしたちが探究学習のテーマをはっきりして，みんなで学習していきたいね。

**テーマ**

## 5 情報の収集（課題について調べる）

（1） 図書室の本，新聞の記事，パンフレット，インターネットで調べよう。
（2） 知っている人（学校の先生，お家の人，地域の人等）に聞こう。
（3） 直接聞いたり，電話・メールで聞いたりする時は，聞くことを短く整理してからにしよう。
（4） 本の名前や，ページ数をメモしておこう。
（5） インターネットで調べる時は，Web をお気に入りに入れておくと便利！

| 直接聞く場合（インタビュー・質問カード） | |
|---|---|
| だれに（　　） | いつ（　　） |
| どのように（　　） | どこで（　　） |
| 聞きたいこと | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

| 聞いたこと |
| --- |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

★お話を聞いた内容で，特に心に残ったこと・大切だと思ったところは，後で線を引いておこう。

★話を聞いて，そこから分かったことや，考えたことを書こう。

**また，疑問があれば，書いておこう。**

## 自分で調べたこと

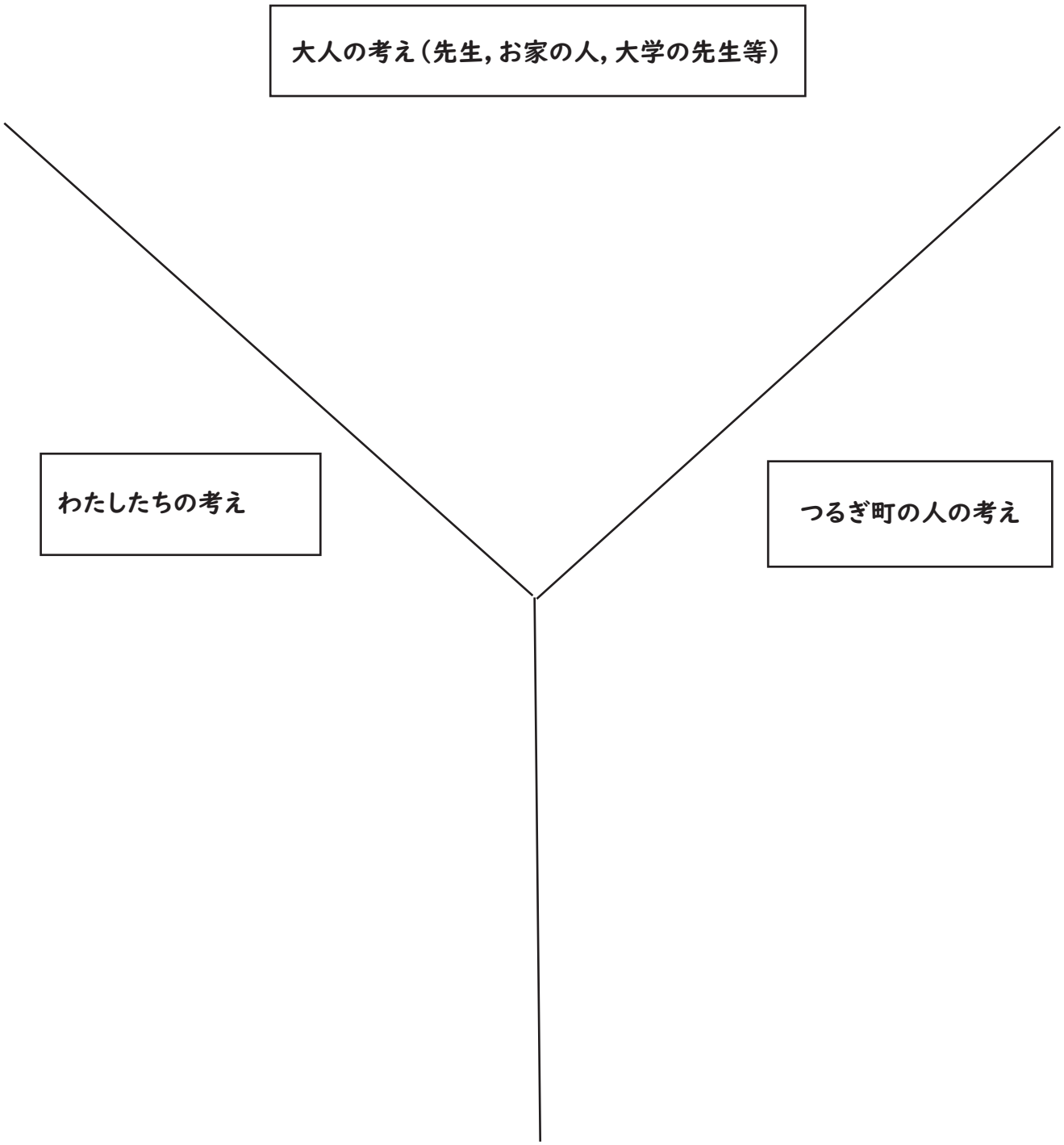
（本のタイトルやページを残しておく，Web はお気に入りにいれておく，新聞記事やパンフレットはこのノートにはっておいてもよい。）

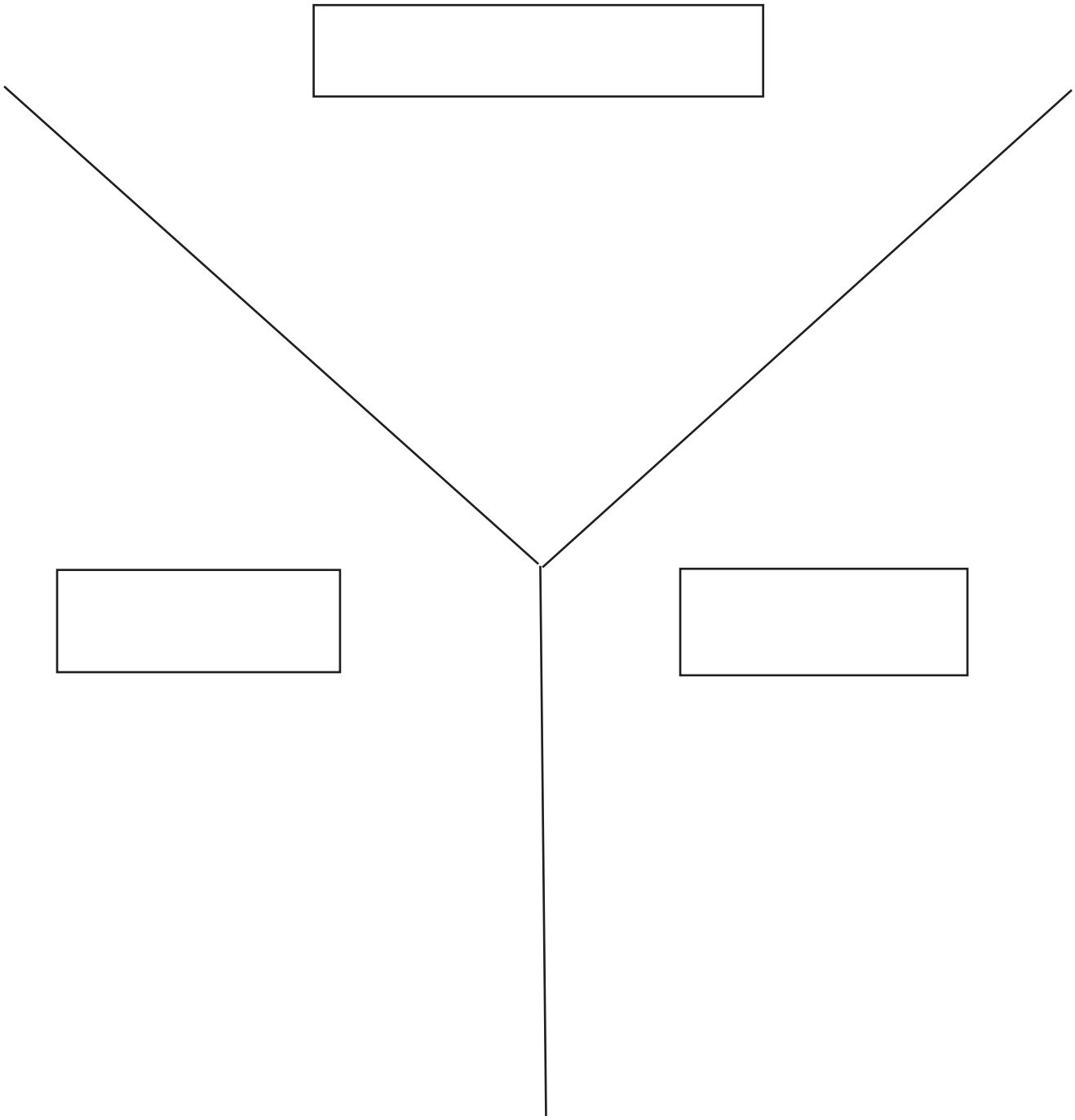
★自分で調べてみて分かったことや，考えたこと，疑問を書いてみよう。

# 6 整理・分析

課題の解決のために調べて得たたくさんの情報を，分類したり，関係付けたり，様々な視点から分析したりしながら，自分たちの考えをつくったり話し合ったりしていこう。

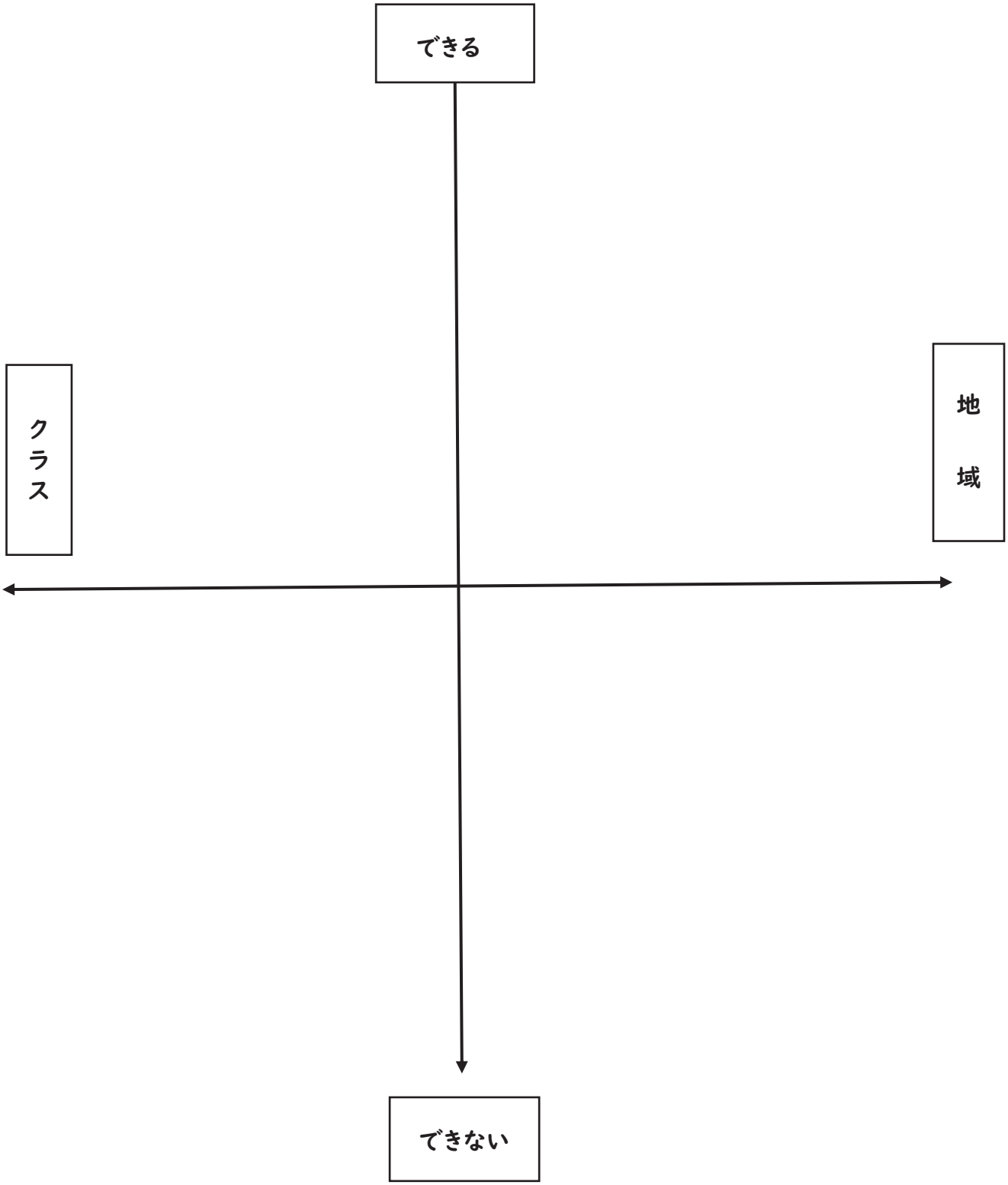
【Y チャートを活用する】→Y チャートとは，Y によって区切られた場所に，「大人の考え」「わたしたちの考え」「つるぎ町の人の考え」などの視点を割り当てて書きます。1 つの課題に対しても，いろいろな人や立場によって，見方・考え方のちがいが整理されて見えてきます。どのような視点にするかは，その時の内容によって変えてもかまいません。

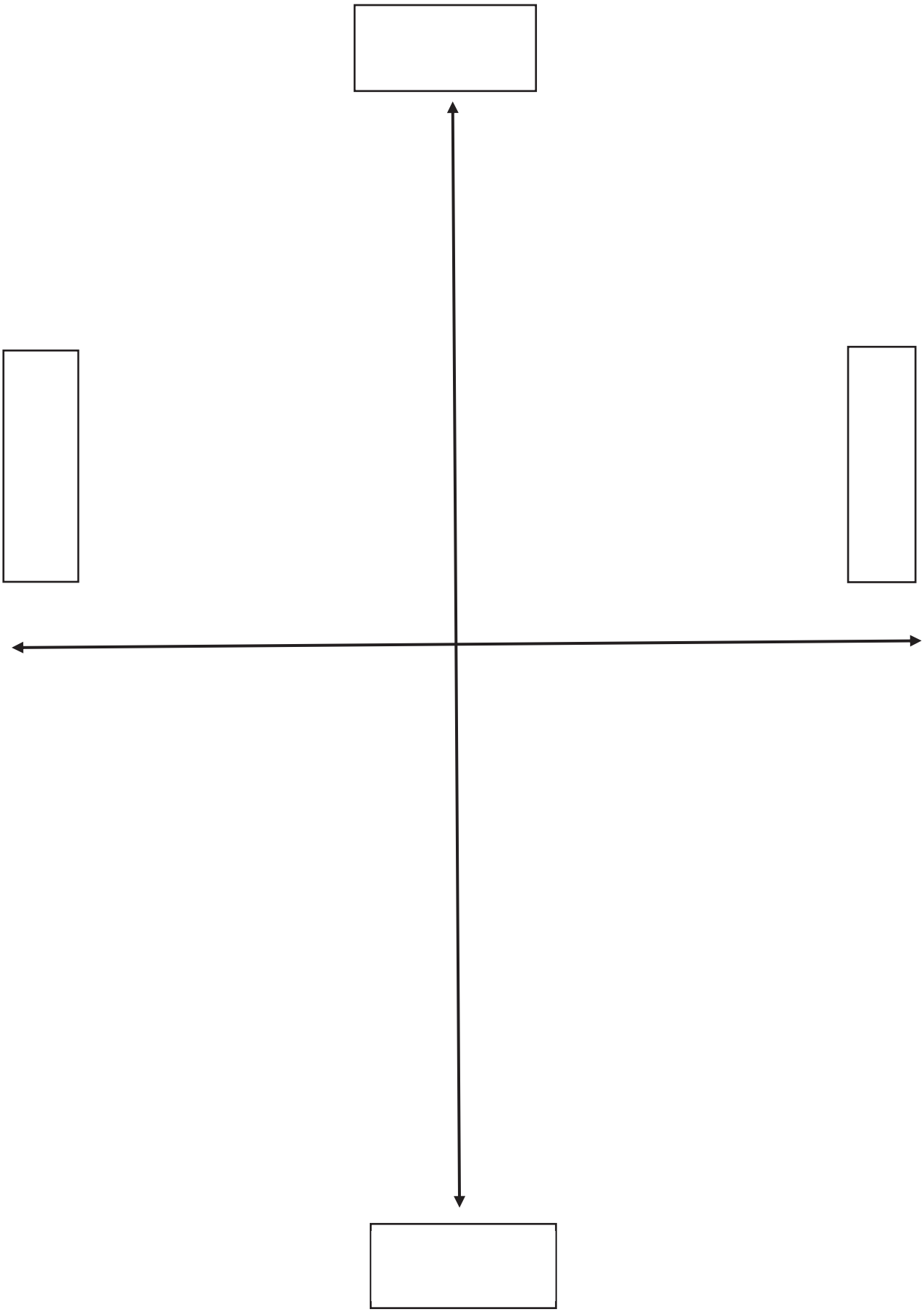




座標軸（じく）を活用して，つるぎ町を元気にするために，「クラス」と「地域」で，「できること」「できないこと」を考え，整理しよう。

【座標軸を活用する】→2 つの軸を立てて，考えや意見，事柄を書く。例えば，「できる」「できない」という軸を立てると，どれくらいできるか（できないか）という度合いを考えることができます。





## 7 表現・まとめ

伝える相手によって，表現の仕方やまとめ方を考えよう。

（1）　誰に向けて伝えるか　→　全校児童，保護者，地域

（2）　新聞，パンフレット，ポスター，プレゼンテーション，ホームページなど

（3）　発表会で，報告会で，パネルディスカッションで，オンラインで

## 8 提言書をつくろう

提言書とは，県や市，町に対して，自分はどのようにしたいかをまとめた文章のことをいいます。

**【提言書の書き方】**

①　表紙（テーマ，キャッチフレーズ）

②　困っていること，改善したいこと

③　提案内容（わかりやすく，かじょう書きで）

④　実現することで得られるメリット

**① 表紙について**

# 提言書

**ここに，テーマやキャッチフレーズを書きます。**

**半田小学校第５学年**

**② 困っていること，改善したいこと**

困っていること，改善したいことを分かりやすく書こう。
1
2

**③ 提案内容**

提案したい内容（現実可能な）を，分かりやすく書こう。
1
2

**④ 実現することで得られるメリット**

提案内容を実現した場合，つるぎ町にとってどんな良いことがあるかを書こう。
1
2

「提言書」って，難しそうだけど，なんだかおもしろそう！　誰に提言しようかな。

## 9 振り返り

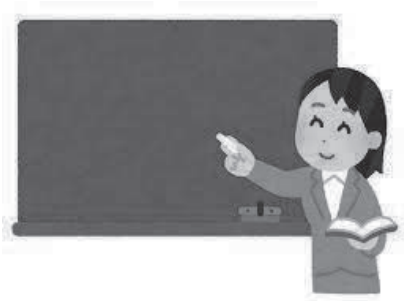
今までの学習を通して，学んだことや感想を書こう。

| |
|---|
| |
| |
| |
| |
| |
| |

## 保護者からの励ましの欄 （ぜひ、保護者の方からひと言を！）

| |
|---|
| |
| |
| |

## 10　先生からのメッセージ



日本の教育は受け身型が多いと言われています。そこでは思考力も判断力も養われず，表現する機会もほとんどないと言われています。これは自分で調べたい，勉強したいという意欲が乏しいためです。

そのため，これからの教育には「探究」が重要なのです。探究学習は「好奇心や学びたいという意欲」から始まります。そしてそれは，最も好奇心が旺盛な子ども時代こそ大切なのです。今こそ，小学校からの探究学習ではないかと思います。

木村紀子の新書『地名の原景』(平凡社新書)では，「つるき」で「たち」は，自らの進む道を切り開くための道具ではないかと説明しています。そう考えると，私たちの「つるぎ町」は，自分たちの手で切り開いてこそ，発展するように思います。それを実現させる原動力になるのは，「子どもたち」の知恵と行動だと思います。

みなさんが大人になる頃は，先行きが不透明な VUCA の時代がやってきたり，AI が今よりももっと発達し，私達の生活の中に入ってきたりすると言われています。そんな時代に，私達に必要な力は，自分で課題を発見し，いろいろな人と協働しながら解決をしていこうとすること。また，自分の生き方をしっかりもち，地域や社会のために貢献できる力だと思います。自分達が生まれた歴史あるつるぎ町のことを深く知り，つるぎ町をもっと元気にするために考えることは，将来のつるぎ町のためになることはもちろん，自分の生き方にも必ずつながると思います。探究学習で，いろいろな人と出会い，実際に話を聴き，体験し，つるぎ町の明るい未来のために何ができるかを考え，提言することを通して，自分の生き方を「探究すること」のきっかけとなればと思っています。

つるぎ町立半田小学校　教諭（鳴門教育大学派遣）　中妻　理恵

鳴門教育大学


小学校から始める「探究学習」

発　行　日　　令和6（2024）年3月1日
発　　行　　鳴門教育大学教職大学院　阪根研究室
協　　力　　つるぎ町立半田小学校教職員
指　　導　　鳴門教育大学大学院　特命教授（名誉教授）　阪根　健二
開発・作成　　鳴門教育大学大学院生　中妻　理恵
イラスト引用　いらすとや，　写真引用　つるぎ町 Web ページ
印　　刷　　協業組合　徳島印刷センター